

競技注意事項

1. 本大会は2019年度 公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって競技を行う。
2. 今大会は、本競技場及び補助競技場（男子八種競技走幅跳）を使用する。

3. 競技者の招集について

- (1) 招集所は競技場第1ゲート側の外に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、競技開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

種目	招集開始時刻	招集完了時刻	種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	20分前	15分前	棒高跳	65分前	60分前
フィールド競技	35分前	30分前			

(3) 招集方法

- (ア) 競技者は出場種目の招集開始時刻がきたら招集所でチェックを行う。事前に一次点呼として掲示板のリストに○印をつける。
- (イ) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- (ウ) 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。
- (エ) 混成競技については、第1日目及び第2日目の最初の競技のみ招集所で点呼を受けるが、2種目目以降は、混成競技係からチェックを受けること。それぞれの競技場所へは混成競技係が誘導する。

4. 競技場への入退場について

- (1) 入退場は必ず競技役員の指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。
- (2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、第2ゲートを通り退場する。
- (3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員または場内指令の指示に従うこと。

5. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは交付された大きさのまま使用し、必ずユニホームの胸・背に確実に付けること。ただし跳躍競技に出場する者は胸・背のいずれかでよい。
- (2) トラック競技出場者は腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方につけること。ただし、男女4×400mRの第2・第3走者は、パンツ左側後方にもつけること。
- (3) 3000m以上の競技（競歩も含む）は、レーンナンバーカードを使用する。

6. 走路順・試技順について

- (1) 予選における走路順・試技順は、プログラム記載どおりとする。
- (2) 準決勝以降のトラック競技の組み合わせ及び走路順、フィールド競技の試技順については、番組編成員により厳正に抽選し、決定する。

7. 同タイムでのプラス進出者確定について

- (1) 800m以下の距離のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは写真判定を拡大し、細部（電気計時1/1000）まで読み取り着差を判定する。
- (2) 判定が不可能な場合は救済レーン（第9レーン）を使用するが、対象選手が救済可能なレーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
- (3) リレーを除く1500m以上のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは、着差判定は行わずに対象者全員を次のラウンドに進出させる。

8. 競技について

- (1) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン到着後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (2) リレー競走に出場するチームは、その種目の第1組目の招集完了時刻1時間前までに、オーダー用紙を競技者係に提出すること。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。
 - * 申告したオーダー用紙の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
 - * 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。
 - * 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。
- (3) 男女4×100mRのテイク・オーバー・ゾーンは30mとする。
- (4) 男女の競歩競技においては制限時間を設ける。男子35分、女子40分以内に4600mを通過できなかった者は、競技を中止させ失格とする。ただし、男子3名・女子6名までは残す。

- (5) 競技規則 162 条 7 により、不正スタートをした競技者は 1 回で失格とする。ただし、混成競技においては不正スタートは 1 回のみ許されるが、その後に不正スタートをした競技者はすべて失格とする。「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、審判長がイエローカードを示し警告を与える場合がある。同一種目において 2 枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げない。
- (6) 競技場内での助力は一切禁止する。コーチングエリアやスタンドから助言を与える場合は場内指令か該当種目の競技役員の指示に従い、競技運営や他の競技者の妨げにならないように注意すること。また、コーチングエリアでは、映像機器の画像を競技者に見せることは出来るが、手渡すことは出来ない。
- ※応援は節度も持ち、大会の進行や競技運営に支障が出ない様に行う。歌や、集団による飛び跳ね等は禁止する。
- (7) 三段跳びの踏み切り板は、砂場から、男子は予選・決勝とも 11m、女子は決勝 9m の地点に設置する。

9. バーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種目	練習	1	2	3	4	5	備考	
男子走高跳	予選	1m70	1m75	1m80				
	決勝	1m75	1m80	1m85	1m90	1m93	1m96	以降 3cm 刻みとする
女子走高跳	予選	1m30	1m35	1m40				
	決勝	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	以降 3cm 刻みとする
男子棒高跳	決勝	3m10	3m20	3m30	3m40	3m50	3m60	以降 10cm 刻みとする
女子棒高跳	決勝	2m20	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70	以降 10cm 刻みとする

- (2) 走高跳・棒高跳で第 1 位及び全道大会出場権決定の場合のバーの上げ下げは、走高跳では 2cm、棒高跳では 5cm 単位とする。
- (3) 混成競技については、混成競技審判長が決定する。

10. 予選通過記録

	走高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	やり投
男子	1m80	6m20	12m40	10m80	30m00	44m00
女子	1m40	4m85	—	8m00	24m00	29m00

※ 天候その他によって通過記録の変更もありうる。

11. 競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使わなければならない。やりは検定を受けて通ったものを使用することができる。検定は、8:00~8:30 までの間に、第 2 ゲート器具庫前にて実施する。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。
12. スパイクの長さは、9mm をこえてはならない。走高跳、やり投は 12mm をこえてはならない。
13. 各種目 8 位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰する。(代理でも良い)
14. その他
- (1) 競技終了後、全道大会出場権を得た競技者の監督は、全道大会申込みを完了すること。
- (2) 各種目の全道大会出場権は、下記の順位である。

種目	100m	200m	400m	800m	1500m	3000m	5000m	100mH 110mH	400mH	3000msc	競歩
男	16	16	16	16	16	—	16	16	16	16	3
女	16	16	16	16	16	15	—	16	16	—	6
種目	400mR	1600mR	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハマー投	やり投	混成競技
男	16	16	12	7	12	12	12	12	7	12	8
女	16	16	12	8	12	7	12	12	6	12	8

- (3) 第 1 日目の補助競技場の走幅跳ピットは、男子八種競技の走幅跳で使用するため 10 時 00 分から 13 時 00 分までの間は使用を制限する。
- (4) 各学校のテント設営は、テント付属の取扱説明書(マニュアル等)に従って、しっかり固定すること。
- (5) テント設置場所は、事前に決定しているスタンド割り振りの場所に設置すること。